

おもしろいね！が、きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！
～アッティーヴォ～

attivo

みやシニア
活動センター
通信 vol.38
(令和2年 1月発行)

上河内地区で活動している皆さんです！

最近、災害を表現するのに「想定外」とか「何十年に一度の災害」という表現が目立ちます。令和元年10月、過去最強クラスの台風15号よりも勢力範囲が大きい台風19号が発生しました。

テレビでは田川・奈坪川・姿川などが、増水で氾濫しそうな状況を伝えています。田川では、刻々と水量が増し、宮の橋や東橋付近も危ないようです。東橋の下には、シルバー大学校中央校宇都宮下町支部で管理している花壇があります。「もう駄目だろう。流されている」

翌朝6時、東橋下の花壇を見に行きました。八坂神社から西に入ったところまで泥水が来ていました。田川の堤防沿いの道路は、泥水で起伏ができています。周りの家の庭にも泥水が入り、門扉に草が絡みついています。やっと東橋に着くと、何もなく花壇の下の土までえぐられてくぼんでいます。ベンチが3つ残っているだけの何とも言いようのない風景でショックを受けました。

時間が経つとさらに被害の大きさが見え、被害にあった友人も避難した人も多くいました。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

今回の38号については、児童の登下校の見守りなど地域推進のために活動している齋藤光男さん、江差追分の第一人者である柿沼初雄さん、休耕田を利用してスイレンなどを育てている手塚章夫さんをご紹介します。(肥後特派員)

①



②



③



① 上河内の地域推進の要

齋藤光男さん

② 江差追分と柿沼北聖先生

柿沼初雄さん

③ 「猿沢の池」への熱い思い

手塚章夫さん

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

①

上河内の地域推進の要(かなめ)

齋藤光男さん

取材:石井特派員



【齋藤光男さん】

「上河内中央小学校見守隊」会長の齋藤光男さん。頂いた名刺の裏には自治会長をはじめ10の肩書が並び、消防団を除いた様々な地区団体の役職をこなしているという話に圧倒されました。

まず、この見守隊を結成したきっかけは、他県で起きた交通事故(登校時に祖父が孫を守って死亡)だそうです。本校区には、国道293号が走り交通量が多く、登下校の児童見守りの必要性を感じ、2015年に10名で活動を始めました。ローテーションを組み、齋藤さんは低学年の下校時に見守り活動を行っているそうです。以来、無事故で現在に至り、近隣の自治会にも活動の輪が広がっているとのことです。

結婚を機にこの地区住民になった齋藤さん。モットーは「地域をよくすること！」。現在、齋藤さんは中里原組自治会長さん。「提案すると検討してくれる」「決定すると協力してくれる」からスムーズに実現できるという協力体制が素晴らしいとおっしゃいます。

地区の区画整理などにより新しい住民が自治会に入会する時には、必ず話し合う機会を設け、地区の成り立ちを説明し、自治会活動・行事・梵天祭りにも積極的に参加してもらい、早くこの地区に溶け込んで元からの住民と仲良くできるように努力しておられます。

また、年2回会報を発行したり、33班の班長会議の組織化を図ることにより協力体制が強まり、種々の活動も積極的に活発になったそうです。



【梵天祭りの参加者】

さらに、地区の一人暮らしの方を訪問して元気づけたり、困りごとや要望は自治会青年部に連絡すると、網戸修理や電球交換などを快く引き受けてくれるとのこと。これらの活動が実を結び、中里原組自治会は栃木県知事から表彰を受けました。

齋藤さんが力を入れている大きなイベントは、1月中旬に開催される「どんと焼き」で10月から準備委員会を組織し活動を始めます。各団体運営の店舗設営や魅力ある出し物により、今年は1,500人以上の人が集まり盛り上りました。

また、2年前に立ち上げた「いきいきサロン」を年2回開催し、子供から高齢者までが参加して、特技や技術を持った地区の方が指導者となり名刺やカレンダーなどを作り、今回は押し花コースター作りなどと内容に工夫を凝らしています。さらに、高齢者が楽しめる場として立ち上げた「老人クラブお茶会」を月1回開催し、料理・カラオケ・輪投げなどを楽しんでいます。

今年新たに始めたのが、上河内の地域おこしの核となるまちの駅を目指した「朝市」で、地元の農産物・特産品・手作り作品などを販売しています。知名度を上げ定着させることが、今後の課題だそうです。常に地域のことで頭が一杯の齋藤さんですが、さらに御礼奉公として楽しい生きがいの場である「老人クラブ」を盛り上げたいとのこと。体調管理のための早朝約4kmのジョギングも怠りなく、仲間とのゴルフも欠かせない楽しみとか。ますますお元気で頑張ってください。

「カモメの鳴く音にふと目を覚まし あれが蝦夷地の山かいな」

ご存じ江差追分の歌詞です。メロディはすぐに浮かんでこなくても、北海道民謡江差追分は日本人なら誰でも知っています。そして「ソイー ソイ」という出だしを知っています。江差追分は前述の歌詞を伸ばしたり縮めたりしながら、2分50秒ほどかけて唄います。「こぶし」や「ゴロ」と呼ばれる装飾的な節回しが特徴です。いわゆるテクニクというもののなのでしょう。



【柿沼北聖先生】

今回、紹介するのは栃木県民謡界の重鎮であり、江差追分を歌う第一人者である柿沼北聖先生です。取材のため柿沼先生が会主の「北聖会」の練習場にお邪魔しました。練習場には、江差追分の楽譜が壁一面に掛けてありました。一見楽譜なのですが、五線譜のようで五線譜でなく、「せつど」「もみ」「すくい」などいろいろ書き込みがあるのです。そして、何よりも「江差追分会師匠会 承認」と記載されています。この楽譜は誰でも掲示できるわけではなく、江差追分全国大会の優勝者のみに許されることだそうです。

柿沼北聖先生は平成25年第51回大会の優勝者です。

この江差追分は、江差の長い歴史と風土の中で根付いてきた唄です。日本人の心に共感を呼び起こす唄として全国に広まり、現在、江差追分支部は海外も含め149支部、会員数も3,000名を超えるそうです。世界に誇る伝統文化となり、毎年9月にこの江差町で「江差追分全国大会」が開かれ、全国から選び抜かれた370人の唄い手全員が江差追分を唄います。この期間、江差は江差追分一色となります。

こうした広がりの中、第51回大会で優勝されたということは大変なことで栃木県民として誇るべきことだと思います。

現在、北聖会には14名の会員の方が日々練習を積み重ねられています。取材に伺った練習日のこの日は、物凄い雨で大変寒い日でした。8名の方が練習に来られていました。柿沼先生が江差追分を披露した後、一人ずつ持ち唄を唄われます。三味線・尺八・太鼓が入り迫力があります。最初に尺八を吹かれていた阿部正男さんが「箱根馬子唄」を唄われました。「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」聞いたことのある歌詞です。簡単に



【師匠会承認の江差追分の楽譜】

「うまい」というのは失礼にあたるような「深い」唄でした。次に桜井京子さんが「磯節」を唄われました。こちらもまた素晴らしい唄でした。会員の方が次々に唄われ、合の手を全員で行います。最後に一人ひとりに柿沼先生の講評やアドバイスがあります。

柿沼先生は、民謡の魅力について「節を回して唄うところに民謡の味わいがある。しかし、完璧に唄うことが出来たと思うことはない。上手に唄えたことはない。でもその難しさがまた魅力なのだ」とおっしゃいます。北聖会では、ぜひ練習に来てほしいとのことです。(連絡先 090-4092-5539)

今日は民謡の魅力を、そしてプロの凄さを味わえた一日でした。

③ 「猿沢の池」への熱い思い

手塚章夫さん

取材：猶原特派員

「今里水と緑を守るみんなの会」の手塚章夫会長をご紹介します。

宇都宮市今里町にある「猿沢の池」をご存知でしょうか？毎年6月ころ下野新聞にスイレンの名所として紹介され、大勢の方が訪れています。さらに、カキツバタの群生もあり、写真マニアの絶好の場所になっています。

この「猿沢の池」を管理されているのが「今里水と緑を守るみんなの会」の方々です。



【手塚章夫さん】

地元の方をはじめ多くの方に里山の池で花を楽しんでいただけるようにと、雑草取り・草刈り・木道やベンチの手入れ等の作業をされています。この土地は以前水田でしたが、休耕したため湿地帯となりました。平成14年から隣接する柚子畑を借り受け、20人位でまちおこしの一環として15年間柚子のオーナー制度を活用し、最盛期には200本程度になり関東圏から観光客が訪れたそうです。1年遅れて湿地帯にスイレン・ハス・水芭蕉等を植え、木道を整備して現在の

の原型が出来ました。今年は水芭蕉の位置を変え、もっと鑑賞しやすい場所に移動しました。

このように、過去の経験を活かし、いかに多くの方に花を楽しんでいただけるかを鑑賞者の目線で改善を続け、多くの方の努力により毎年きれいな花を咲かせています。

この会の活動として「田んぼのまわりの生きものマップ作り」も行っています。上河内西小学校の児童を対象に夏休みに用水路の生きものを捕獲し、集落センターで宇都宮大学生の指導のもと観察・写生・マップを作り、そして放流する活動です。完成したマップは「農地水生きものMAPコンクール」に出展します。この辺りは自然が豊かであり、将来にわたり生きものに興味を持ち、この環境を守ってもらえればと思いました。

また、年3回、用水路や西鬼怒川周辺の草刈りをトラクターにスライドモアを取り付けて行い、機械で刈り取れない所を人力で何日もかかって行うそうです。

さらに、遊休農地の管理も行っており、ひまわりやソバを蒔き、周囲の人を和ませています。ソバの実を粉にしてソバを打ち、地域の皆さんに無料で試食していただいています。まさに一石二鳥の活動です。



【用水路の生きものを捕獲】

このように地域で色々な活動をされている手塚さんですが、農家の長男として生まれ本来なら家業を継ぐはずでしたが、東京の会社に就職されました。しかし、ご両親の度重なる説得により地元に戻られ、第二種運転免許を取得してバス会社に就職されました。兼業農家としての再出発です。

定年後もバス会社に嘱託として14年間勤められ、その間に自治会の副会長や会長等の要職を務められました。69歳で自治会長を引き受ける際には、一からパソコンの学習をされたことには驚かせられました。お会いした感じでは、細身のお体なのに何処にそんなパワーをお持ちなのかと不思議に思いました。

まだまだ、会や地元のためにもご活躍していただける感じを一層強くしました。

○ 発行／編集 みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）
住所：宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所2階 高齢福祉課D8窓口
電話：028-632-2368 ファクス：028-639-8575
ホームページ：https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp